二次元ドリームノベルズ

18
未満

サンダークラップス！リボーン

THUNDER CLAPS! REBORN

ピースキーパー

試し読み版

羽沢向一
挿絵：緑木邑

スターサンダー Star thunder

スーパーヒーローチーム
「サンダークラップス」のリーダー。
端正で気品のある大人の美女。
地球人の母と宇宙人の父を持つ混血のミュータント。
電気を自在に操る能力を持つ。

フレア Flare

「サンダークラップス」の一員。
凛とした力強い美女。
悪の科学者ドクター・ディスオーダーに創られた人造人間。
頑強な肉体と怪力を持つ。

サンダークラップス! リボーン ピースキーパー
CHARACTERS

Contents

第一章
サンダークラップス水着回！
スイムスーツイシュー 004

第二章
エクストリーム！ 020

第三章
スターサンダーの秘密が明らかに！
オリジン・リビールド 044

第四章
牝奴隷と巨獣姦ショー 068

第五章
牝奴隷肛悦レース 096

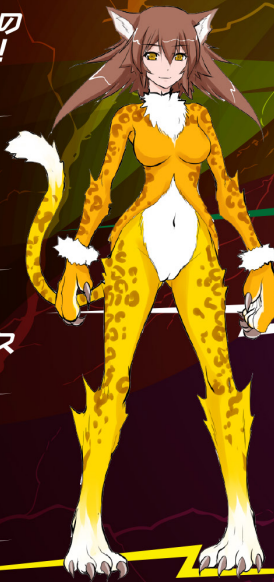
第六章
牝奴隷に咲く淫らな花園 110

第七章
黒い宇宙
ブラックマルチバース 139

ローズデバイス

Rose device

「サンダークラップス」の一員。
清楚可憐で色白な美少女。
亡父の実験中の事故により、幼いころに重傷を負い、体内にナノマシンを入れている。
様々な機能を持つアーマーを装着して闘う。



オセロット

Ocelot

「サンダークラップス」の一員。
猫科の猛獣の雰囲気を持つ陽気な美女。
南米の自然の精霊たちに認められたシャーマンで、精霊の力を宿してジャガーの獣人に変身して魔法を使う。

Attention

バドリス・オル

スターサンダーの異母兄。とある事情で妹を恨んでおり、復讐するために地球へやってきた。

第一章　サンダークラップス水着回（スイムスーツイシュー）！

オフビート。

それは世界中にいる超人たちの総称。

かつてソビエト連邦が存在した冷戦時代のはじめに、テロリストがワシントンD・C・へ向けて放った核ミサイルを、ひとりの男が生身で受け止め、生身で宇宙まで運んで捨てた。大勢の人々を救ったその男は、宇宙からもどってくると集まった記者たちへほがらかに笑って、僕は子供のころから『超調子（スーパーオフビート）っぱずれ』と呼ばれていた、と語った。

それからもスーパーオフビートは鮮やかな赤いコスチュームをまとい、赤いケープをひるがえして、倒れかかったビルを持ち上げ、墜落する飛行機を支え、海底に沈んだ潜水艇を引き揚げた。

さらに多数の犯罪者と闘い、ギャングが放った銃弾の雨も砲弾も胸板で跳ね返し、テロリストが仕掛けた猛火にも冷凍にも耐えて、悪党を逮捕して法の裁きのもとへ送った。

最初に世に現れた超人スーパーオフビートに刺激されたのか、それまで知られていなかった超人たちが次々と姿を見せた。

彼らは生まれついての超能力者、改造人間、魔法使い、あるいは意志を持つロボット、伝説の妖怪や魔物、はては異星人に別次元人までいた。人々は最初の超人にちなんで、彼らをオフビートと呼んだ。

オフビートたちのある者は平凡に暮らした。

ある者は特別な能力を悪用した。

そして多くのオフビートたちが、始祖スーパーオフビートにならって、犯罪や事故から人々を助け、天災から人々を救うスーパーヒーローとして活躍している。

鈴堂麗（りんどうれい）。日向燦（ひゅうがさんさら）。柳（やなぎ）イザベラ美果（みか）。北原静子（きたはらしずこ）。四人も各々異なる理由で、様々な超能力を得たオフビート。

麗はスターサンダー。

燦はフレア。

美果はオセロット。

静子はローズデバイス。

と、ヒーローネームを名乗り、スターサンダーをリーダーとしてサンダークラップスというヒーローチームを結成している。

世にデビューしてから間もないが、人気の高い新進気鋭のチームだ。

とはいえスーパーヒーローにも普段の生活はある。正義と平和を護るためには、ときに肉体と精神をくつろがせることも必要だ。

今日は昼間から、四人そろって練馬区内にあるスーパー銭湯に来ていた。西武池袋線沿線に住居兼秘密基地を置くサンダークラップスにとっては、手近にあるありがたいリラックスの場所。四人の間ではサンダークラップスリラクゼーション基地と勝手に呼んでいる。

スーパー銭湯には男性用と女性用の二つの大浴場の他に、男女共用の屋内温水プールがある。プールでは水着の着用がルールで、サンダークラップスの四人も女性用着替え室の互いに姿が見えない位置で着替えていた。

今日はリーダーの麗の提案で、別々に買った水着をプールで披露し合う計画だ。

大きなセームタオルで胴体を隠した四人がプールサイドに集まると、互いを見つめ合い、探り合い、牽制する。

わずかな間の後、広い屋内プールに高々と声が反響した。平日の昼間なのでまばらな客たちが顔を向けてくる。

「ベルが一番目ッ！」

柳イザベラ美果は、チーム内ではミドルネームの愛称のベルで呼ばれている。ベルは南アメリカで生まれ育った日系人。短い髪に縁どられた日焼けした顔は、ネコ科の猛獣を思

わせる俊敏さと愛嬌が同居している。

チャリティイベントに出演したスーパーヒーローが、マントをバサリと背後へ跳ね上げるように、ベルが右手でタオルを派手にはだけた。

現れたベルの日焼けした身体は、スピードを競うアスリートのようにしなやかで力強い。胸と尻は巨乳豊臀というにはやや小さいが、引きしまった肉体と美しいバランスを構成した。

ジャングルで育んだ溌溂たる健康美の肉体を飾るのは、肩紐のないチューブトップのビキニ水着。

普段から動植物をプリントした服を好むベルは、ビキニも明るい黄色の地にニューギニア島に生息する極楽鳥をちりばめている。

「どう、どう、この極楽鳥の模様？　あちこち探して見つけたんだよ。ほらほらほらッ！」

ベルは両腕を後頭部にまわして、胸をつんと突き出し、腰を振り、サンバのリズムでジャングルの鳥を盛大に踊らせた。存在しない陽気な音楽が聞こえそうな女体の躍動に乗せられて、プールの男たちから、おおっ、と歓声が上がる。

「さああっ、次にお披露目するのは燦かな！　静かな！」

ベルの煽りを受けて、燦と静子は顔を見合わせ、アイコンタクトして、同時にタオルを

広げた。
日向燦は二十歳前後に見える。短い髪に、凛とした美貌。サンダークラップスのなかでは一番の長身で、女の魅力とたくましさを兼ね備えた肉体に、二番目に豊かなバストサイズを誇っている。
北原静子は十代後半だが、小柄で華奢（きゃしゃ）な身体つき。可憐で愛らしい美貌にも、肉体にも、まだ少女の面影を残している。胸のふくらみはまだ小さく、尻も熟すにはまだ遠い。
対照的な容貌の燦と静子だが、水着は同じデザインだった。純白のワンピース水着。下半身はローレッグで、二人のサイズの違う尻と下腹部をしっかりと保持している。
水着になってニッコリと微笑み合う燦と静子をながめる男たちが、ほう……と吐息をつく。
ほのぼのした空気を引き裂いて、ベルの怒声がほとばしった。
「二人いっしょに水着を買いに行ったなッ！　別々に買うと約束したのに！」
燦と静子がタイミングを合わせたように顔を左右に振った。
「いやあ、それはたまたま水着売り場で静子と出会っちゃって」
「そうなんです。なんとなくおそろいになっちゃって」
「卑怯だ！　それでも」

ベルが周囲に聞こえないように声を潜めて、二人に顔を近づける。
「正義のヒーローか」
静子も小さい声で言い返した。
「偉大なヒーロー、ミスター・アンフェアは言っています。『ヒーローが護るのは正義という言葉でなく人間だ。人命を護るためにはどんな卑怯なことでもする』と」
ミスター・アンフェアは日本の最も初期に現れたスーパーヒーローだ。誘拐・拉致・監禁・人質を取っての立てこもり等の事件において、縦横無尽の策略で犯人を翻弄（ほんろう）して、数知れない被害者を救出してきた。
ベルが芝居がかった困惑顔で、大げさに肩をすくめて見せる。
「純情可憐だった静が、いつの間にか闇落ちしてる。こんなことなら、ボクが持ってる本場のブラジリアンビキニを燦に渡せばよかったよ。燦の立派なプロポーションならよーく似合うから」
ベルの瞳が輝くのを見て、燦は苦笑する。
「渡されても、そういうのは絶対に着ないから」
「それじゃあ、麗ちゃんの水着を見せてもらおう。きっとすごいよう。18禁かも」
「麗は常識人だよ。ちゃんと公共のプールの常識をわきまえている」

ベルと燦の言葉を声援にして、麗は孔雀が美しい尾羽を広げるようにタオルを持つ両手を開いた。

鈴堂麗は二十代後半。長い黒髪を頭の上にまとめて、大人らしい端正で聡明な美貌を少し上気させている。

肉体は色白で、むっちりと熟していた。豊満な乳房は四人の中では最も大きく、自重でやや位置が下がっているのが艶めかしい。ウエストのゆるやかなくびれの下には、みっちりと肉のつまった尻が実っている。さらに太腿もむちむちだ。

大人の女の魅力を凝縮したような女体を包んでいるのは、紺色のスクール水着。ご丁寧に胸の白い布には『匿名』とサインペンで手書きしてある。

目の前で見ているチームメイトの三人だけでなく、プール中の男女が唖然として声を失った。豊満な乳肉も尻肉もきちんと水着の厚手の生地の内側に納まり、窮屈な感じはしない。既製品のスクール水着を無理やり着込んでいるのではなく、わざわざ自分の肉体に合わせて製作したものだとわかる。

数秒後に、燦が口に出した。

「ど、どうしてスクール水着⁉　大人はスクール水着を着ないことは、ちゃんと知ってるだろう」

麗はかなりうっとりした表情に、艶然と笑みを浮かべた。

「もちろん、知っているわ。知識としてね。でも地球文化の研究者として、知識だけでなく、スクール水着を実体験しておきたかったのよ。これこそがフィールドワークだわ」

学者らしい言葉を口にしながら、燦たち三人が見つめる麗の瞳はねっとり潤んで、小鼻が少し広がっている。多数の人々の前でスクール水着姿を披露することに、歓喜を得ているのは明らかだ。

「さあ、プールを楽しみましょう！」

麗は手にしたタオルを近くの壁のバーにかけると、ランウェイを闊歩するモデルのごとく颯爽とプールサイドを横切り、温水プールへと近づいていく。男女の視線の集中放火を浴びながら、優雅な動作で温水に入った。

「麗らしいといえば麗らしいね。わたしたちの中で一番常識を知っているのは麗だけど、平気で常識を無視する」

「あたしは常識的な人生を送ってきたとは言えないから、常識にはあまり自信がないです」

「それを言ったら、ボクたち四人とも普通の人生を送っていないよ。そもそも常識のある人間は」

三人は一段と声を低くして、同じことを言い合った。

「スーパーヒーローにはならない」
笑い合う三人に、麗が温水の中から手を振った。
「早く遊びましょう。いつ呼び出されるのか、わからないんだから！」

☆

ひとしきり遊んだプールから女性用大浴場へ移った四人は、水着を脱ぎ、身体を洗って、中庭に面した天然温泉露天風呂にそろって浸った。
緑の庭木にかこまれた広い浴槽は、茶色い湯をなみなみとたたえている。地下一キロ以上の深さから汲み上げたナトリウム－塩化物強塩温泉で、大昔に地中に閉じこめられた海水に様々な成分が溶け込んだもの。
麗は頭にたたんだタオルを乗せて、茶色い湯面に豊かな乳房を二つの島のように浮かせ、温泉の中に白い裸身を長々と伸ばした。弛緩した美貌から、ゆるゆるっと喜声があふれる。
「はああ～～～ああ。極楽極楽～～～～う。はあ、ビバノンノン」
思い思いに湯船でくつろぐ三人が同時に言った。
「おっさんくさいなあ！」

「びばのんのん？」
「びばのんのん、てなんの呪文？」
麗はゆるんだ顔に自信をたっぷり浮かべる。
「日本では、温泉に入ったら、極楽極楽ビバノンノンと言うのが伝統なのよ」
「えっ、そうなの？」
「あたしは聞いたことがない気がするんですけど……」
「ボクは南米育ちだし」
やはり日本の伝統と言われると、少々自信がない。地球の文化研究と称して趣味に走った雑学を調べている麗が一番の物知りだ。
「まあまあ。細かいことは気にしないで、のんびりリラックスしましょう」
しかし、そうはいかなかった。
麗、ベル、燦の耳の穴に入れている通信機から、同時に愛らしい少女の声が聞こえた。
静子だけは特別な脳が直接電波を受信して、声に変換する。
『小電光（リトルボルト）』です。警察から救援要請が来ました。緊急度、重要度、ともにSクラスです。暴力団同士の抗争で、敵対する数人のオフビート組員が能力を使って、あたりかまわず暴れています」

リトルボルトは、サンダークラップスの基地を管理するコンピューターに与えた人格だ。
「場所はわたしがナビゲートします。急いでください！」
四人はうなずき合うこともせず、湯船からザバッと立ち上がり、ペタペタと音を立てる急ぎ足で大浴場を横切り、他の客を驚かせる猛烈なスピードで私服を着た。外の駐車場に停めた白いワゴン車の荷物室のドアを開けて、全員が座席ではなく荷台に乗りこむ。
麗は指先で首に巻いたチョーカーに触れた。異星の技術が発動して、赤いスーツとスカート、ブラジャーとショーツ、靴下とパンプスが微粒子に分解されて、チョーカーに吸収された。
入れ替わりにチョーカーから新たな物質が噴出して、一糸まとわぬ麗の裸体の表面にコーティングされる。物質は瞬時に凝固して、豊満な女体に薄く密着するスターサンダーのヒーローコスチュームになった。
スターサンダーのコスチュームは、真紅のレオタード型のボディスーツ。アクセントとして青い稲妻の模様が走っている。身体の前面は、胸の中心からへその下まで切れこみがあり、豊かな巨乳の半分となめらかな腹の肌をあらわにする。
両脚には膝下までの赤いブーツ。
顔には同じ色のアイマスク。

やたらと露出の多いレオタードとロングブーツだけに見えるが、実際には素肌が覗く腹や太腿も透明な材質で包まれている。

とにかく巨乳となだらかな曲線を描くウエスト、大きく張った尻、むっちりした脚線が余すところなく表れたコスチュームは、女性スーパーヒーロー専門のパパラッチ動画サイトの再生回数ベストテンの常連だ。一部からは教育に悪いとクレームも出ている。

どちらに関しても、麗＝スターサンダー本人はまったく気にせずに、見事な肉体を世間に見せつけていた。

静子はテキパキと白いワンピースを脱ぐと、華奢な身体に着た黒いインナースーツ姿になる。車内の隅に置いた黒いアタッシュケースのロックを、脳から発した電波で解錠した。中から多数の金属片が飛び出し、静子の身体の周囲で結合して、頭頂部からつま先まで包みこむ。

ほんの数秒で、金属片は静子を中に収めるハイテクの装甲（アーマー）と化した。

アーマーを装着した静子はローズデバイスとなる。

エメラルドグリーンに輝くアーマーは、金属でありながら優美な大人のボディラインを形作った。中の人の静子よりも長身で、バストもヒップも豊かなプロポーションを誇る金属の美女だ。正体を知るサンダークラップスのチームメイトと一部のヒーロー以外は、ア

ーマーの外見からローズデバイスを大人の女だと信じている。
ベルは口から獣の咆哮に似た呪文をうなった。光沢のあるハチドリをプリントしたTシャツとデニムのショートパンツとサンダルが一瞬で消失して、全裸の肉体が別のものに変貌する。
顔はネコ科の猛獣に近くなり、短髪が伸びて長いたてがみになる。頭の上から三角形の獣の耳がピンッと立った。全身には獣の体毛が生えて、黄色い地に黒い斑点模様が浮かぶ豹柄になる。尻の上からは黄と黒の縞模様の長いしっぽが垂れた。
ジャガーを思わせる獣人の肉体と化したベルは、オセロットと名乗る。
燦だけは普通に白いシャツとダークブルーのパンツを脱ぎ、自分のかたわらに置いたコスチュームを着た。ただし普通の人間をはるかに超える高速で。
燦が着替えたのは、袖のない白いミニスカートのワンピース。正確には白いボディスーツの腰に短いスカートがついている。高く盛り上がる胸には黄色い炎のエンブレムが描かれている。世間ではよく白いチアリーダーとも呼ばれるコスチュームだ。
チアリーダーとの違いは、背中に腰までの長さの白いマントがあり、両脚にロングブーツを履いていること。
フレア、が燦のヒーローネーム。

車外に降りたフレアは、両腕でスターサンダーの身体をお姫様抱っこする。
「行くよ」
「ＯＫ」
フレアは抱えるスターサンダーの体重など存在しないように、背中の白いケープをひるがえして空中に飛び上がった。
ローズデバイスの背中には、オセロットがしがみつく。
「よーし。ローズ、発進！」
「しっかりとつかまってください」
ローズデバイスのアーマーの両足の裏からジェットが噴射して、緑色に輝く金属のボディが垂直に飛翔する。オセロットはコアラさながらにしがみついている。
サンダークラップスのメンバーのうち、飛行能力を持つのはフレアとローズデバイスの二人だけ。緊急の場合は、どうしてもこういう移動になった。青空を高速で移動する四人の周囲には、ローズデバイスが形成した流線型の透明なバリアがある。おかげで直接突風を浴びることなく、スターサンダーとオセロットも呼吸に困らない。
サンダークラップスは事件現場へと、高速で飛んだ。

☆

空から事件現場に降り立ったサンダークラップスの四人は、そろって目を丸くして、口をポカーンと開いて、奇怪な光景を前に棒立ちになった。

駆けつける途中に音声で聞いた資料によれば、関東でも有数の武闘派暴力団と、関西から進出して来た武闘派暴力団が激突して、双方が擁するオフビートヤクザが殺し合っているというのだ。

だが目の前では、両腕がガトリング銃になった巨漢と、背中から燃える炎の翼を広げた大男がしっかりと抱き合い、互いの健闘を讃え合っている。鋭い金属の爪を生やした四本腕の痩身の男と、先端が牙の生えた口になった長い髪の束をグネグネと動かしている女が、肩を組んで爽やかな歌をデュエットしている。見るからに凶暴なミュータント犬の群れを連れた男と、見るからに獰猛なサイボーグ猿の群れを率いる男が、缶ビールをぶつけて乾杯している。

オフビートだけでなく、超能力はないが高い悪名はある暴力団員たちも、長年の友人たちのパーティーのように、陽気に笑い合い、下手な歌を合唱し、手拍子をバックに乱舞している。そのまわりの路面には、ドスや拳銃や釘バットが大量に打ち捨てられていた。あ

まりに不思議な光景に、警官たちもどうしていいのかわからず、遠巻きにながめている。
「これ、なに？」
と、フレアが口にした。
「謎です」
と、ローズデバイスのエメラルドグリーンのアーマーが首をかしげた。
「謎だね」
と、オセロットが鼻をクンクンと動かした。妖しいオカルトな匂いはないようだ。
「これはもしかして……だとしたら、とんでもないことだわ」
スターサンダーだけは美貌をけわしく引きつらせた。

「えっ、どういう、ああっ！」

美里の二本のピンクの肉筒が猛烈に震動して、細く柔らかい管の中から液体が出る音が鳴る。

ビュルッ！

ビジュルルル！

太く長い乳首の先端が開いて、白い粘液がドッと噴出する。

「あっおおおおおお！　おっぱい汁がいっぱい出て、一度目の絶頂をイッちゃいますううううっ!!」

爆乳からあふれる白い体液はすべて、押しつけられているスターサンダーの乳首と乳房に浴びせられる。露出した豊乳だけでなく、コスチュームを着た腹も股間もべっとりと白く染められた。

エクスタシーとともに母乳を分泌する種族は、宇宙ではそれほど珍しくもない。白い体液が出るだけなら、スターサンダーも驚きはしなかっただろう。

しかし、今も大量のミルクを出しつづける二つの乳筒がさらに直径を増して、先端の噴出口が大きく広がった。美里の歓喜の叫びがいっそう高くなる。

「あっひいいいい！　見て！　レイ様、よく見てえ！　美里の淫乱なおっぱいを見てくだ

さいっつ、イックううううううッ!!」

ミルクの湧出が止まったと思うと、また白いものが出た。今度は粘り気のある液体ではなく、細長い個体。左右の広がった母乳穴から一本ずつ、合計二本の白いものがうねうねと蠢きながら伸びる。

それはひと言でいえば。

「触手！」

と、スターサンダーはうめいた。触手としか表現のしようがない二つのものが、自分の裸の胸の上を這いまわっている。ようやく理解した。どうして美里が年齢を重ねていないのか。かつてとは違う爆乳になっているのか。

「美里さんは『最悪な蟲（ワーストワーム）』の犠牲になったのね！」

美里はさらに触手を搾り出すように、両手の指を柔らかい乳肉に食い入らせて、快感に身悶えた。

「はい、さようですう。はあああ、わたしはワーストワームに寄生していただいて、この素敵な牝奴隷の肉体になることができました。うっんんん、とっても感謝しています」

美里の表情と言葉に、スターサンダーは名状し難い戦慄を覚える。ワーストワームの名はシャウナで検索した宇宙犯罪の資料で知った。もとは銀河の辺境の惑星で発見された寄

生生物だという。その特殊な生態を利用するために様々な研究をされたが、結局人体への危険が著しいので銀河規模で利用が禁止された。

しかし裏社会では研究が進み、ついに寄生した女を理想的なセックス奴隷にする道具、裏の商品名『ワーストワーム』になった。見たのは一般に配布される公的な資料だったので、文字と音声の解説だけで、犠牲者の映像は添付されてなかった。

はじめて実際に対面した犠牲者のあまりにも凄惨（せいさん）な姿に、愕然（がくぜん）とするしかない。

ワーストワーム自体には知性がない。ただ寄生した女の肉体を作り替える。性感が高まり、淫乱な肉体になる。他人の命令に従順に従い、どんな酷いことでも喜んで実行して、それを大きな快楽とするようになる。不老不死ではないが、外見の年齢を変わらなくするという。

美里の肉体の変異と精神の変容そのものよりも、それを望んだ者たちの邪悪な欲望に背筋が凍る思いがする。

美里は自ら乳肉を強く揉みしだき、乳首のミルク孔と、みっちりとつまった触手とのわずか隙間から、白い体液をポタポタと押し出して、よがり声をあげる。

「はあああ、んっ、くうんん、レイ様もわたしと同じ至福の境地をたっぷりと味わってください」

搾乳オナニーに耽溺するキャビンアテンダントの乳首から伸びた二本の触手が、スーパーヒーローの左右の乳房にギチギチと巻きつき、まるで紐で縛られたハムのようなありさまにされた。触手のうねる白い先端が、乳首に強く押し当てられる。

「ひいっ！」

敏感な乳首に、指先を針でつつかれたようなわずかな痛みがチクッチクッと閃く。そして異様な感覚が胸の中に生まれた。

（は、入ってくる！　なにかが、胸の中に入ってきているわ！）

細い紐のようなものが、うねうねと蛇行しながら、乳首から量感たっぷりの乳肉の中へ潜ってくる感触が、鮮明に感じられる。理性では、異常で不気味に思えてしかたない。しかし胸からは別のものが湧き上がってきている。

胸全体が熱く蕩けるような快感だ。

性の経験が豊富なスターサンダーにして、言葉で表現できない未知の愉悦が、謎の紐のうねりと進行にしたがって大きくなっていく。

「あっ、あああ……こ、これは、はううっ、ワーストワームがわたくしの中に入ってきているの、あっおおおう！」

「さようです。レイ様の胸の中に、わたしのワーストワームが子供を植えつけたのです。

これでレイ様も、わたしと同じ素敵な肉体になれます。さぞやバドリス御主人様もお喜びのことでしょう」

美里の唇がめくれ上がり、白い歯の列を見せつけて笑った。

「これからわたしが体験したものを、牝奴隷の椎名美里が味わったことを、レイ様にも体験していただきましょう！」

周囲が変貌した。宇宙船の広い展望室も、頭上の宇宙空間もなくなる。

かわりにまったく別の光景が広がっている。

「こ、ここはどこ!?」

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行
株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル
TEL03-3555-3431（販売）／FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改さん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。
ⓒKILL TIME COMMUNICATION　Printed in Japan

http://ktcom.jp/

正義のスーパーヒーローチームの原点！

二次元ドリームノベルズ

サンダークラップス！

淫獄の四天使

小説：羽沢向一
挿絵：カワギシケイタロウ

全国書店、各電子書籍サイトにて好評発売中！

シリーズ作品の電子書籍版も
好評配信中！

正義のスーパーヒーローチームが帰ってきた！

二次元ドリームノベルズ

サンダークラップス！リボーン シリーズ

THUNDER CLAPSI REBORN

羽沢向一 挿絵：緑木邑

各電子書籍サイトにて
各巻好評発売中！